

ことです。他方、共同研究に関しては、「アトム・モンキョラー型等の共同研究形態を積極的に利用する」とされている方が 172 名と多数あります。このことから、「客員として新研究所に参加して共同研究に取り組みたいが、諸般の事情でおそらく不可能であろうから、後者の共同研究形態を利用したい」と皆さんは考えておられるのではないかと、私には思われます。それぞれの機関にはそれぞれの事情がありますし、必ずしも新研究所だけの問題ではありませんが、やはり、このような「客員として研究に参加したい」ひとが実際に参加できるようなありかたを考える必要があると思います。

以上、アンケート結果の客観的な報告と分析は別に改

組準備調査室からなされていますから、ここでは、固体地球物理、それも測地学の関連の分野に所属している、新研究所の中でもいわば境界領域に近いものの立場から、アンケートの結果に対する私の感想とそれについて考えたことを述べました。いずれにしても、主流はもとより境界領域迄を含めた、広範な学問の推進こそが大切なことであることはいうまでもないことですから、そのことを最も重視して（残念ながら現実にはそうでないかと判断せざるを得ない事例もしばしば見かけますので）、新研究所の在り方、今後の運営方針などを考えていって欲しいと思います。

## 雑 報

### こぎつね座 1987 年新星

茨城県水戸市の桜井幸夫氏は、1987 年 11 月 16 日の夕方に撮影した 2 枚の写真フィルム（フジカラー HR1600）上に新星状の像を発見して、東京天文台へ連絡して来られた。この新星はベックマンとコリンズにより 11 月 15 日にそれぞれ独立で発見された新星と同じ星であり、桜井氏も独立発見者の一人となった。なお、この新星の位置は、スミソニアン天体物理天文台のホリン達による望遠鏡の目盛による測定では、

$$\alpha = 19^{\text{h}}04^{\text{m}}09^{\text{s}}, \quad \delta = +21^{\circ}44'24'' \quad (1987.8)$$

であり、スペクトルには K1 の吸収線と H $\alpha$  の強い輝線が見える、という (IAUC 4489, 4492 等)。

### 市村彗星 1987d1 の発見

埼玉県比企郡吉見町の市村義美氏は、同氏たちのグループで運営する“いわき天体観測所”（福島県いわき市）で、1987 年 11 月 22 日 21 時 30 分 (J.S.T.) にエリダヌス座の  $\alpha = 3^{\text{h}}57^{\text{m}}7^{\text{s}}$ ,  $\delta = -19^{\circ}12'$  の位置に 9 等級の彗星像を口径 12 cm, 20 倍の双眼鏡で発見し、22 時 40 分には南へ約 9 分角移動しているのを確認して直ちに東京天文台へ連絡して来られた。同観測所には他に数名の同じグループの人達がいる、その人達によっても確認されていた。特に、田中政明、斉藤勉の両氏は直ちに写真撮影を行ない、その原板を東京天文台へ持参された。東京天文台では直ちに IAU 天文電報中央局へこの事実を通報したところ、アメリカでも M. ルデソコが確認し 1987d1 = Ichimura Comet と名付けられた。尚、田中政明氏の 16 cm F2.5 シュミットの原板を筆者が測定し、次の結果を得た。

$$1987 \text{ Nov. } 22.58397 \quad \alpha = 3^{\text{h}}57^{\text{m}}32^{\text{s}}20 \quad (1950.0) \\ \delta = -19^{\circ}14'41''.2$$

IAU の取り決めで年内の発見数が 26 個を越え、英語の a~z が埋まった時は、a1, b1, …… とすることになっている。今回の市村彗星は 1987d1 であり、これは 1987 年中の 30 個目に相当する。過去の最多記録は 1983 年の 22 個であり、今年はその記録を更新している。

### 新彗星 Furuyama (1987f1) の発見

茨城県利根町の古山茂氏は、1987 年 11 月 23 日 16 時 10 分に撮影したオリオン座北西部の写真フィルム上に、光度 12 等級の彗星像を発見した。翌 11 月 24 日に再び同星野を撮影し、更に友人の協力を得て肉眼観測を行ない、その天体の移動を確認して東京天文台へ通報して来られた。

東京天文台では古山氏が過去にも 1975X=Suzuki-Saigusa-Mori 彗星の第 5 番目（同じ発見日）の発見者であり、またベテランの彗星観測者であることから、直ちに国際天文学連合天文電報中央局へ通報した。その結果、パロマー天文台でシューメイカ夫妻の撮影していたフィルム上でも検出されて新彗星が誕生した。この古山彗星の発見で 1987 年に発見・検出された彗星は 32 個となり、また日本人の発見は 4 個である。尚、日本人の発見した彗星の総数は 50 個となった。

(以上 香西洋樹)

☆ ☆ ☆